

哲学委員会（第 25 期・第 6 回）及び合同分科会
議事要旨

日 時：2021 年 12 月 5 日（日）10：00～12：00

場 所：オンライン会議にて開催

出席者：出席者：吉岡洋（委員長）、吉水千鶴子（副委員長）、小林傳司（第一部幹事）、奥田太郎（幹事）、芦名定道（幹事）、安藤泰至、一ノ瀬正樹、伊藤博明、上原麻有子、小倉紀蔵、小田部胤久、香川知晶、垣内景子、梶原三恵子、加藤泰史、川橋範子、木村勝彦、木村敏明、小島優子、佐藤弘夫、佐野みどり、澁谷政子、島菌進、下田正弘、鈴木隆泰、武田宙也、田坂さつき、土屋太祐、土井健司、直江清隆、永井由佳里、中島隆博、中村征樹、納富信留、野家啓一、藤原聖子、八尾史、八木久美子、渡辺裕、建石真公子

<合同分科会>

1 前回議事要旨の確認

前回議事要旨について確認を行った。

2 哲学委員会からの報告

吉岡委員長より、11 月の拡大委員会および 12 月の総会および第一部会での議題について報告があった。今後の日本学術会議のあり方について、参加者と意見交換が行われた。

3 各分科会の活動報告

・各分科会の活動状況が各部会委員長より下記の通り報告された。

- ✓ 芸術と文化環境分科会：4 回の分科会を開催。7 月にシンポジウム「文化の互換可能性」が開催され、その後の記録の残し方について相談中である。
- ✓ 古典精神と未来社会分科会：3 回の分科会を開催。若い世代に古典の観点から学知を届けるべく、書籍刊行の準備を進めている。
- ✓ いのちと心を考える分科会：6 回の分科会を開催。8 月にコロナ禍におけるトリアージをテーマとしたシンポジウムを開催。その成果の出し方について相談中である。2 年目以降は安楽死や尊厳死の問題に取り組む予定である。
- ✓ 哲学・倫理・宗教教育分科会：第 24 期の「報告」が教育現場で活用されるにはどうすればよいかについて議論を続けており、教育業界との連携を視野に入れた意見交換会を実施している。今後は、理工系分野の専門家との連携により情報教育と道德教育のつながりについて取り組む予定である。
- ✓ 世界哲学構築のための分科会：新しく分科会は開いていないが、国際哲学人文科学協議会（CIPSH）のサポートを実施する予定。また、2023 年春開催予定の世界哲学諸学会連合（FISP）の運営委員会を東京に招致し、その間、集まった世界の哲学者とのアカデミックイベントを構想中である。

4 その他

日本学術会議だからこそできる活動のあり方について意見交換が行われた。

<哲学委員会>

1 前回議事要旨の確認

前回議事要旨について確認を行った。

2 第一部会・拡大役員会の報告

合同分科会での報告内容を確認するとともに、任命拒否問題について意見交換が行われた。また、人文系の国際連携について、日本学術会議が連携の受け皿になっていないという実情についての情報交換が行われ、今後、よりよい日本学術会議の活動をしていく上で、人文系の国際連携の受け皿機能の充実が必要であることが確認された。

3 その他

今期の予算残額の状況について確認された。

4 次回開催について

次回の哲学委員会は、後日日程調整を行い決定することが確認された。